

は明らかな差異は認められなかった。

結論：血栓シンチグラフィと血小板寿命の測定は、従来の凝血学的指標とともに、血栓症の診断、凝血能の亢進の把握に有用な検査であると考えられた。

4. 脳虚血における血小板カルシウム濃度

(神経内科)

内山真一郎・望月 昌子・長山 隆・
柴垣 泰郎・小林 逸郎・丸山 勝一

目的：細胞内カルシウムイオンはアゴニストの刺激による血小板活性化に重要なセカンドメッセンジャーであることが知られている。今回我々は脳虚血患者において血小板内カルシウムイオン濃度 ($[Ca^{2+}]_i$) を測定した。

方法：対象は抗血小板剤未投与の慢性期脳血栓症・TIA 24例と年齢を対応させた患者対照 7例である。方法はクエン酸加静脈血に $3\mu M$ の Fura-2/AM を loading し、ACD-A 液 1/10 容を添加した後 4ml の Hepes

緩衝液を用いて遠沈により 2 回洗浄し、 $2 \times 10^6/\mu l$ の血小板浮遊液を作製し、CAF-100型細胞内カルシウム測定装置を用い、 $1mM$ の $CaCl_2$ を添加して resting level の $[Ca^{2+}]_i$ を測定した後、 $0.5units/ml$ の thrombin 刺激による $[Ca^{2+}]_i$ の上昇を測定した。更に、EGTA を用いて細胞外カルシウムをキレートすることにより Ca^{2+} influx と mobilization を算定した。

結果：対照群に比し、脳虚血患者群では thrombin 刺激による $[Ca^{2+}]_i$ が高値であった ($p < 0.05$)。また、同時に測定した、thrombin 刺激による血小板凝集能と $[Ca^{2+}]_i$ の上昇および mobilization とは正相関した。E5510 の経口投与により thrombin 刺激による $[Ca^{2+}]_i$ の上昇、mobilization, influx, 血小板凝集能はいずれも著明に抑制された。

結論：脳虚血患者では血小板の Ca^{2+} 動態に異常が存在し、これが血栓準備状態として血小板凝集能の亢進に寄与する可能性が示唆された。

第 5 回 東京女子医科大学血栓止血研究会

日 時：平成 2 年 3 月 9 日 (金) 6:00~8:00 pm

場 所：第一臨床講堂

当番世話人挨拶

細田 瑛一 教授 (循環器内科)

一般演題

座長 青崎正彦 医長 (国立横浜病院循環器科)

1. 抗リン脂質抗体症候群の妊娠例の臨床的検討

雨宮照子・橋口和生・安達知子・武田佳彦 (産婦人科)

高木耕一郎・岩下光利・中林正雄・坂元正一 (母子総合医療センター)

2. 冠動脈内血栓溶解療法における線溶因子の変動

岩出和徳・青崎正彦・上塚芳郎・石塚尚子・

川名正敏・木全心一・細田 瑛一 (心研 循環器内科)

大木勝義・甫仮妙子 (心研 研究部)

3. 肝細胞癌における異常プロトロンビン (PIVKA-II) の臨床的意義と基礎的知見

奥田博明・中西敏己・古川みどり・小幡 裕 (消化器内科)

4. 治療が奏効した骨髄増殖性疾患に合併した肺梗塞 2 例

藤原和代・山田 修・芳田 工・

泉二登志子・押味和夫・構口秀昭 (第一内科)

5. 脳塞栓症における凝血学的分子マーカーの変動

望月昌子・内山真一郎・金井由美子・鄭 秀明・

長山 隆・柴垣泰郎・小林逸郎・丸山勝一 (神経内科)

座長 細田 瑛一 教授 (心研 循環器内科)

青木延雄 教授 (東京医科歯科大学第一内科)

特別講演

Fibrinolysis